

神宮寺便



明けましておめでと〜うございます

創建五百五十八年を迎え、これからも皆様に寄り添い、支えとなるお寺を目指して、歩んで行きたいと思えます。

どうぞ、本年も神宮寺を宜しくお願い申し上げます。 合掌

厄年の意味 良啓

「厄年」と聞くと、どの様なイメージをお持ちですか？

「悪い年」、「健康や身の回りに気を付けなければいけない」などが多数の方のイメージでしょうか？

実はこれ、半分正解です。

仏教では、「波乱万丈の年」と考えます。そもそも、一年間を通して、全く変化の無い年などありません。大なり小なり好不調があります。それが、厄年は大波の絶好調と大荒れの絶不調になるのです。大事なことは、荒れている谷間の時期には大人しく過ごし、良い大波が来た時は迷わずに挑戦する事です。大失敗もありますが、大々成功もすぐ近くにあります。その為、当寺で厳修する厄除け祈願では、施主様の心眼を良く養う点に集中します。好不調の波は肉眼では見えません。心を良く保つことで、感じる事が出来ます。

さて、厄年は数回ありますが、その中で最も重要な年齢が大厄です。男性四十二歳、女性三十三歳です。平成二十九年は男性が昭和五十一年生（辰）、女性が昭和六十年生（丑）です。

厄除け祈願の時期は年初に行う事が一般的です。どうぞ、皆様のお参りをお待ちしております。

南無大師遍照金剛



十三仏紹介 ⑤地蔵菩薩 裕俊

十三仏とは、初七日から三十三回忌の追善供養を司る仏さまのことです。今回は、五・七日忌の本尊「地蔵菩薩」様をご紹介します。

〓真言

おん かかかび さんまえい
そわか

地蔵菩薩様は、サンスクリット語で「クシテイ・ガルバ」というお名前が、「クシテイ」が大地、「ガルバ」には胎内や子宮という意味があります。

大地が全ての命を育む力を蔵するように、苦悩の人々を無限の大慈悲の心で包み込み、救ってくださる事からこの名前が付けられました。幼くして亡くなった子供たちを救ってくれる仏様として広く知られており、「水子地蔵」として寺院に祀られている姿が良く見られます。

五・七日を迎えた精霊は、閻魔王の審判を受けると言われますが、この時にどの六道（天・人間・阿修羅・畜生・餓鬼・地獄の苦しみに満ちた世界）に行ったとしても、地蔵菩薩が救って下さり、浄土（仏の世界）を示してください。

